

救急救助

あなたの命を守る マイナ救急



あなたの 小さな 説明書

マイナ保険証を
携行しましょう




あなたの
病歴


お薬の
処方歴


病院の
受診歴

マイナ保険証があれば、
話すのがつらい時、薬が何か忘れた時でも
より適切な処置を受けられます！

F 救急救助関係

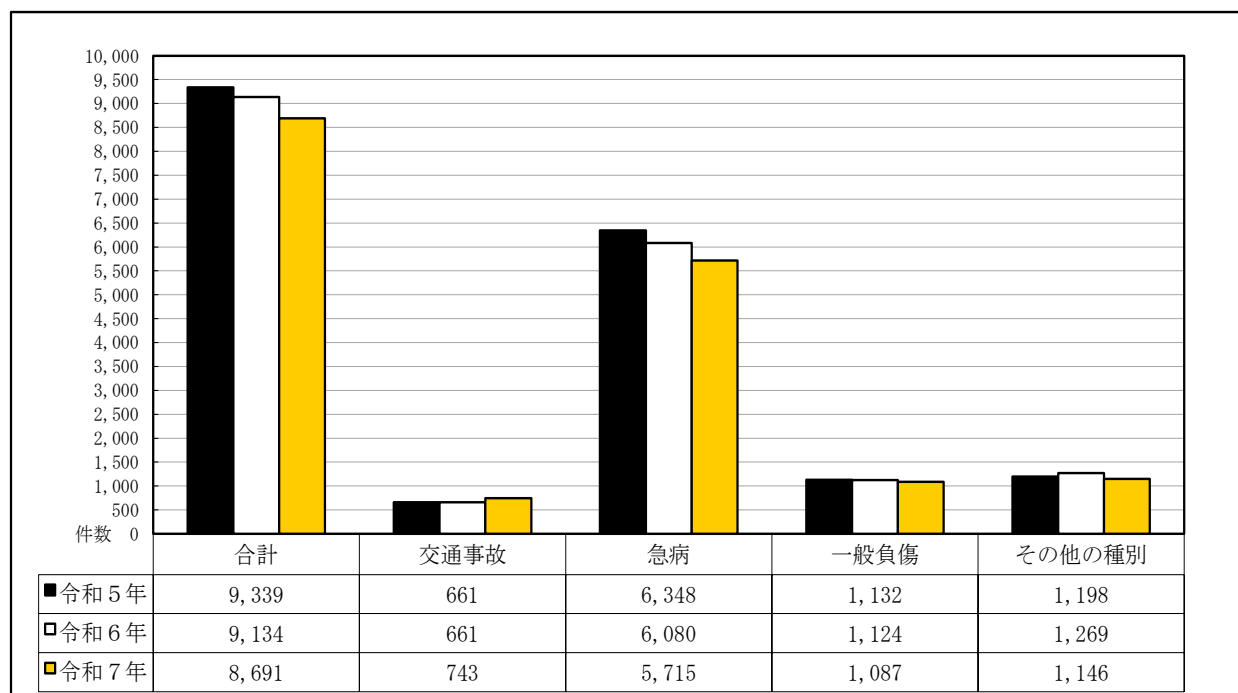
1 救急活動状況

救急業務は、消防機関の任務として昭和 38 年の法制化以来、社会生活の複雑多様化、急速な高齢化社会の進行等の要因もあって、今や住民生活に不可欠な行政サービスとして極めて重要な分野を占め、救急件数も飛躍的に増大しています。こうしたなか、わが国の救急は救命率等において世界的水準に達していないという世論を受け、平成 3 年 8 月に救急救命士法が施行され、医師の指示の下に高度の応急処置が行えることとなり、その後、平成 15 年 4 月に包括的除細動、平成 16 年 7 月に気管挿管、平成 18 年 4 月に薬剤投与、また、平成 26 年 4 月には心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液投与が可能となり、救急隊員の業務は大きな変革を遂げています。

また、平成 29 年 4 月には、全国で初めて医師をメディカルアドバイザーとして消防機関に迎え、救急隊員のみならず、救助隊員や消防隊員へ教育指導、さらには市民への救急救命講習を行っています。

このような状況を受け、当消防本部でも救急救命士の養成を含めた救急隊員に対する教育訓練の充実を図り、また、救急救命士等が救命処置を実施するための高度な応急処置用資器材を搭載した高規格救急自動車 8 台を、5 消防署 1 分署に配置し、各種救急事象に対応しています。

(1) 過去 3 年間の救急出動件数



令和 7 年中の救急出動件数は 8,691 件で、前年の 9,134 件に比べ 443 件の減少となりました。これは 1 日平均 23.8 件出動したことになります。これを事故種別で見ると急病が最も多く、5,715 件で全体の 65.8% を占め、次いでその他の種別 1,146 件（13.2%）、一般負傷 1,087 件（12.5%）、交通事故 743 件（8.5%）の順となっています。

（注）件数比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100 にならない場合があります。（以下同じ）

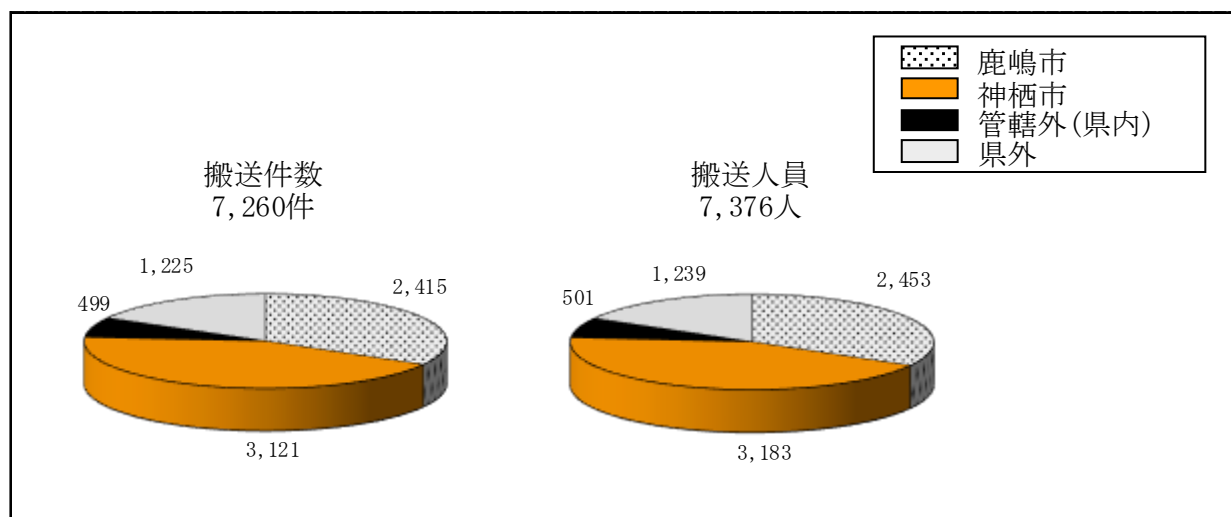
(2) 署別事故種別出動件数・搬送件数・搬送人員調べ

(令和7年1月～12月)

区 分 件数 人員		救 急 事 故 種 別											合 計	不 搬 送
		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他		
大 野	出動件数	5			63	7	5	159	2	6	783	32	1,062	
	搬送件数	1			52	7	5	143	1	4	671	25	909	153
	搬送人員	1			58	7	5	143	1	4	671	25	915	
鹿 嶋	出動件数	15		1	200	35	56	343	12	32	1,728	222	2,644	
	搬送件数	3			168	34	48	302	6	21	1,361	204	2,147	497
	搬送人員	4			200	34	48	302	7	21	1,361	204	2,181	
神 栖	出動件数	7			269	51	14	278	18	41	1,690	268	2,636	
	搬送件数	2			221	48	13	228	13	22	1,400	246	2,193	443
	搬送人員	2			264	48	13	228	15	22	1,401	246	2,239	
鹿 島 港	出動件数	9		1	138	32	9	121	6	24	578	94	1,012	
	搬送件数	1		1	113	30	9	109	3	17	499	91	873	139
	搬送人員	1		1	128	31	9	109	3	17	500	91	890	
波 崎	出動件数	2		3	27	7	17	82		6	372	7	523	
	搬送件数			2	22	6	14	70		6	321	3	444	79
	搬送人員			2	27	6	14	70		6	321	3	449	
土 合	出動件数	6			46	6	53	104	2	9	564	24	814	
	搬送件数	1			41	6	48	90	2	7	480	19	694	120
	搬送人員	1			45	6	51	90	2	7	481	19	702	
本 部 管 内	出動件数	44		5	743	138	154	1,087	40	118	5,715	647	8,691	
	搬送件数	8		3	617	131	137	942	25	77	4,732	588	7,260	1,431
	搬送人員	9		3	722	132	140	942	28	77	4,735	588	7,376	

(3) 医療機関所在市別搬送件数・搬送人員調べ

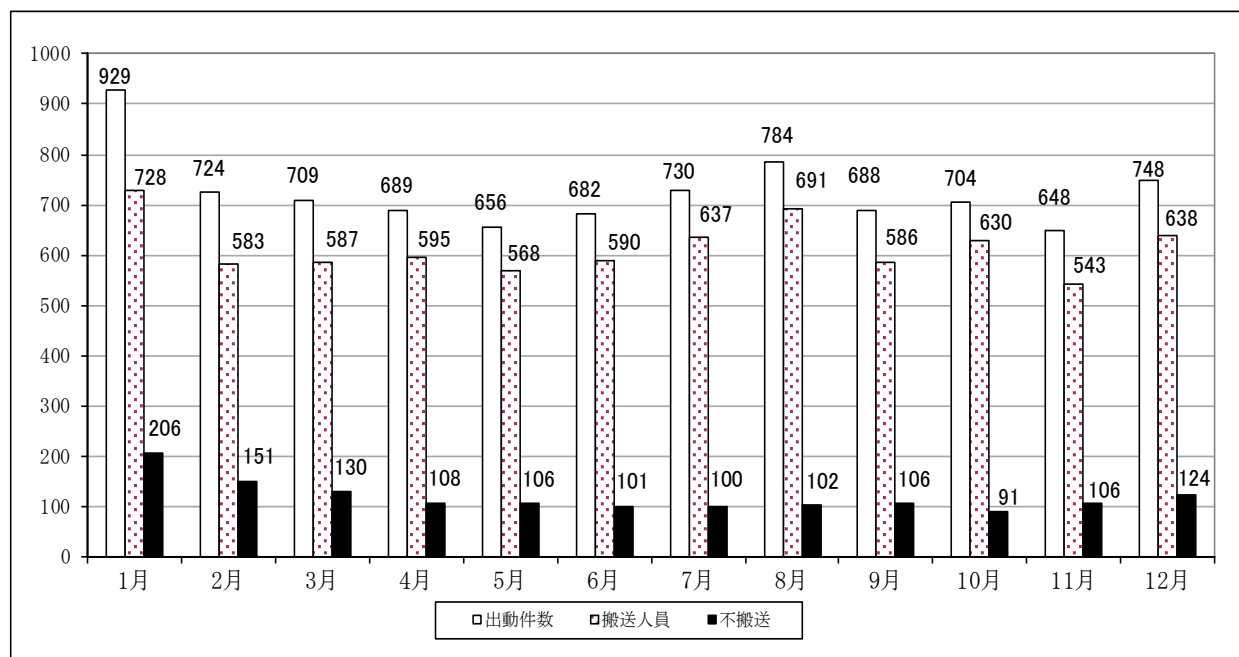
(令和7年1月～12月)



医療機関への搬送件数は7,260件で、搬送された7,376人の内容を見ると、管内医療機関への搬送は5,636人で、全体の76.4%を占めています。次いで県外1,239人(16.8%)、管轄外(県内)501人(6.8%)の順となっています。

(4) 月別出動件数・搬送人員調べ

(令和7年1月～12月)

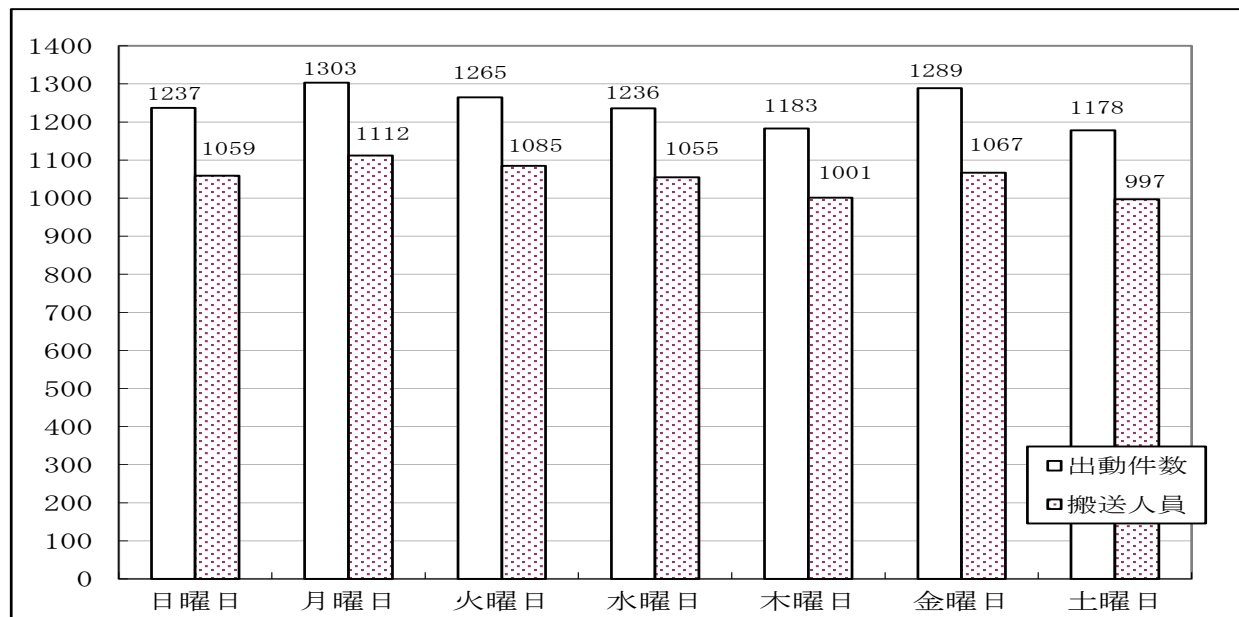


月別に救急出動件数を見ると、最も多いのは1月の929件、次いで8月の784件、12月の748件の順となっています。

また、搬送人員では1月の728人が最も多く、次いで8月の691人、12月の638人となっています。

(5) 曜日別出動件数・搬送人員調べ

(令和7年1月～12月)

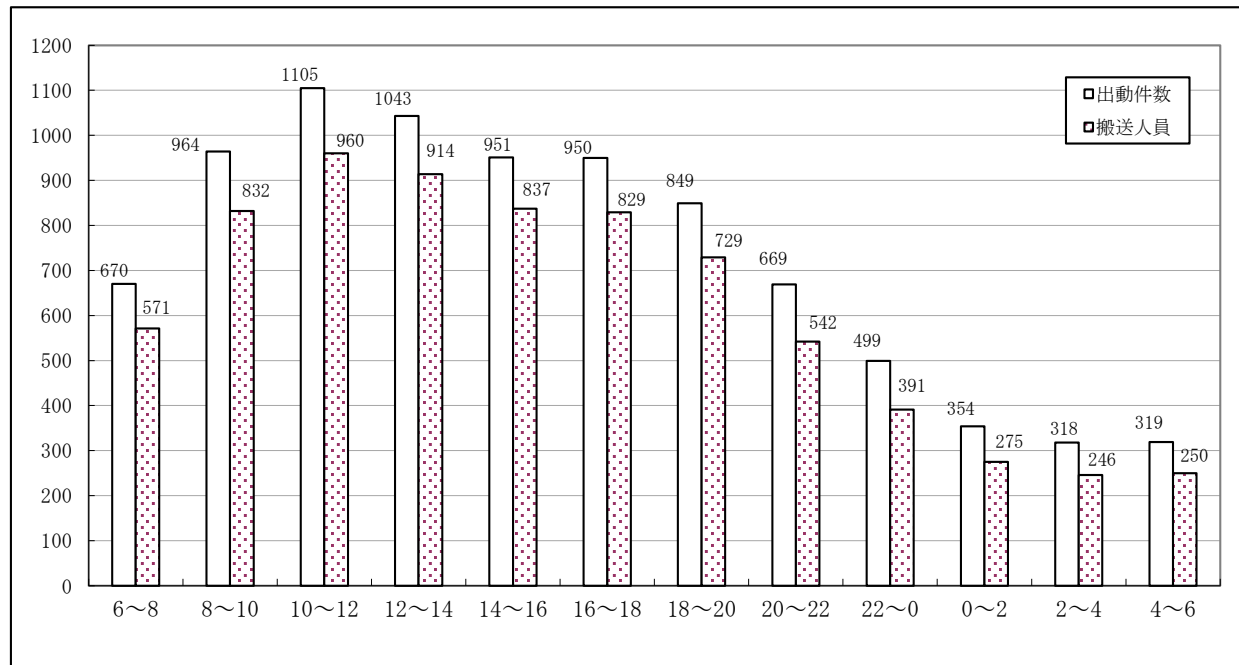


曜日別に救急出動件数を見ると、最も多いのは月曜日の1,303件で、次いで金曜日の1,289件、火曜日の1,265件の順となっています。

また、搬送人員では月曜日の1,112人が最も多く、次いで火曜日の1,085人、金曜日の1,067人の順となっています。

(6) 時間帯別出動件数・搬送人員調べ

(令和7年1月～12月)



時間帯別に出動件数を見ると10時～12時が最も多く1,105件、次いで12時～14時の1,043件、8時～10時の964件の順となっています。

また、搬送人員では10時～12時が最も多く960人、次いで12時～14時の914人、14時～16時の837人となっています。

(7) 救急隊員の行った応急処置件数調べ

(令和 7 年 1 月～12 月)

区分 \ 事故種別	急 病	交 通 事 故	一 般 負 傷	そ の 他	合 計
搬 送 人 員	4,735	722	942	977	7,376
止 血	13	21	67	24	125
固 定	9	228	78	72	387
人 工 呼 吸	128	2	6	11	147
心 マ ッ サ ー ジ	9		1		10
うち自動	7		1		8
心 肺 蘇 生	199	3	11	16	229
うち自動	180	2	10	16	208
酸 素 吸 入	973	73	49	223	1,318
気 道 確 保	300	6	15	28	349
* 1	6		1	1	8
* 2	5		5	1	11
* 3	160	3	6	10	179
* 4	1	1	5	1	8
保 温	56	9	4	12	81
被 覆	31	121	231	87	470
在 宅 療 法 継 続	75		2		77
* A	3				3
* B	2				2
* C	70		2		72
血圧保持ショックパンツ					
除 細 動	19		1		20
血 糖 測 定	89	3		1	93
静 脈 路 確 保	282	11	11	16	320
アドレナリン投与	122	3	5	9	139
ブドウ糖投与	31				31
そ の 他	4,728	720	941	973	7,362
血 圧 測 定	4,344	702	876	934	6,856
聴診器による心音等の聴取	2,209	331	194	160	2,894
血中酸素飽和度の測定	4,567	718	929	961	7,175
心 電 図	3,219	179	255	460	4,113
うち伝送					
合 計	21,575	3,134	3,693	4,000	32,402

*1 経鼻エアウェイによる気道確保

*A 点滴患者

*2 喉頭鏡による異物除去

*B 外傷患者

*3 食道閉鎖式エアウェイによる気道確保

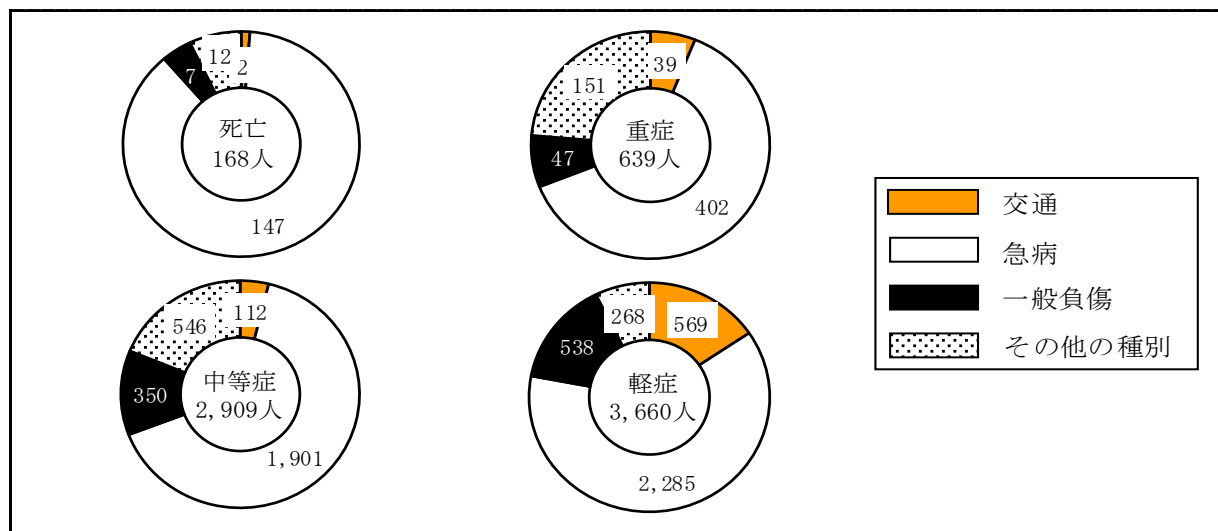
*C その他の患者

*4 気管挿管処置

搬送人員に対する応急手当処置件数は 32,402 件あり、このうち平成 3 年 8 月に拡大された応急処置内容を見ると、血中酸素飽和度の測定 7,175 件、血圧測定 6,856 件、心電図測定 4,113 件、聴診器による心音等の聴取 2,894 件となっています。

(8) 事故種別傷病程度別搬送人員調べ

(令和 7 年 1 月～12 月)

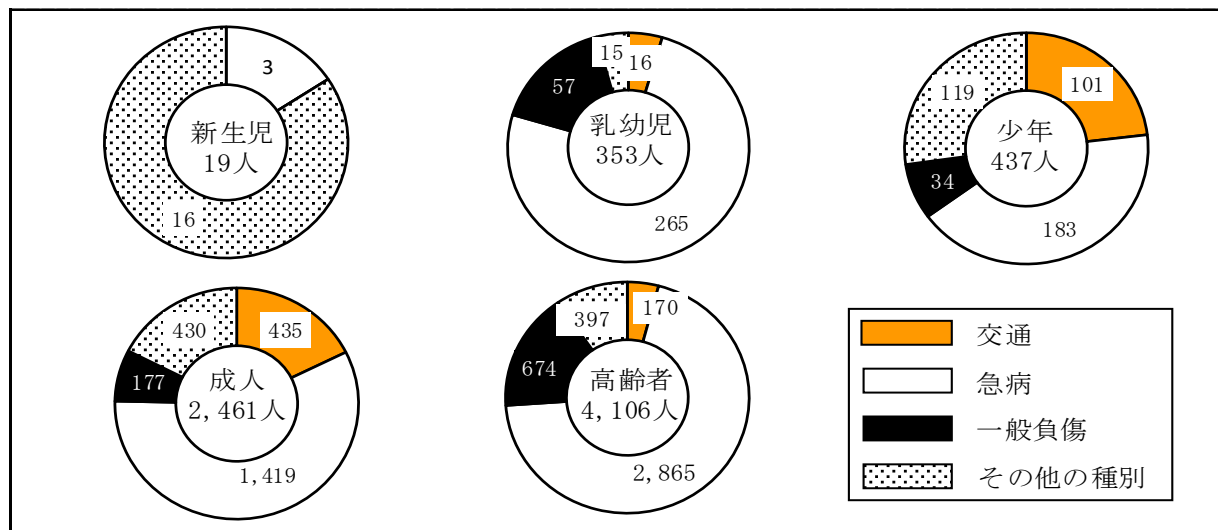


搬送人員 7,376 人を事故種別ごとに見ると、その他の種別を除くと急病が 4,735 人で全体の 64.2%を占め、次いで一般負傷 942 人の 12.8%となっており、この 2 区分で全体の 77.0%となっています。

また、傷病者を程度別に見ると軽症が全体の 49.6%を占め、次いで中等症 39.4%、重症 8.7%の順となっています。

(9) 事故種別年齢区分別搬送人員調べ

(令和 7 年 1 月～12 月)



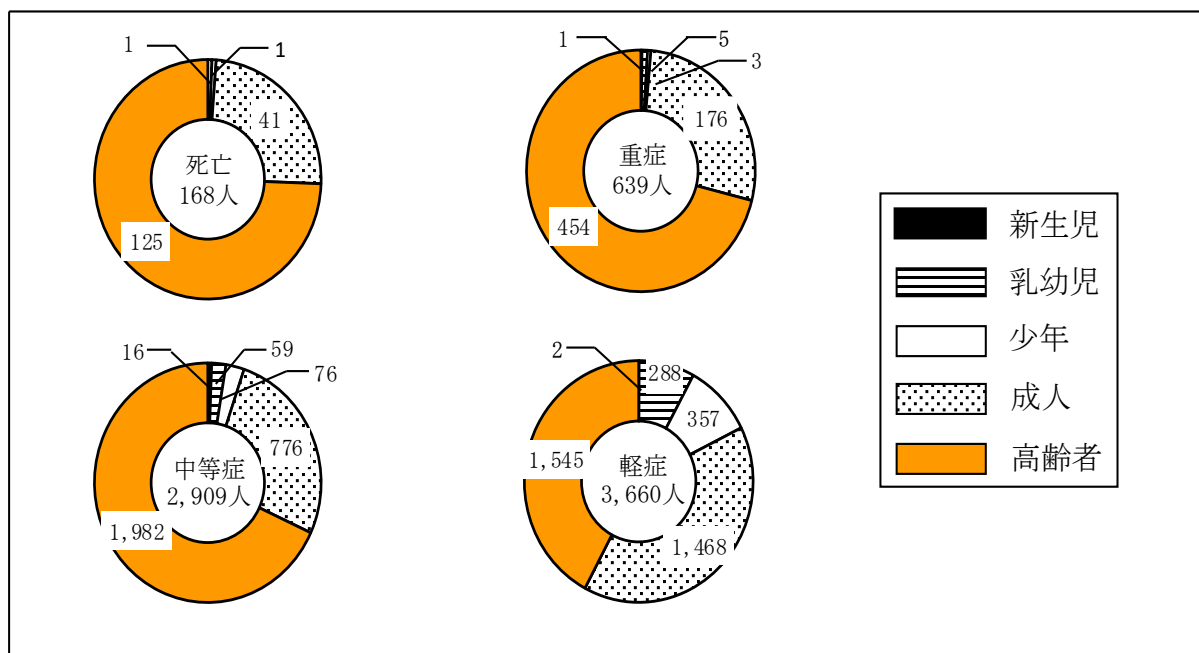
※年齢区分は、次の項目による。

- | | | | |
|--------|------------------|--------|-------------------|
| (1)新生児 | 生後 28 日未満の者 | (2)乳幼児 | 生後 28 日以上 7 歳未満の者 |
| (3)少 年 | 満 7 歳以上 18 歳未満の者 | (4)成 人 | 満 18 歳以上 65 歳未満の者 |
| (5)高齢者 | 満 65 歳以上の者 | | |

事故種別年齢区分をその他の種別を除き、搬送人員の多い急病と一般負傷について見ると、急病による搬送人員は 4,735 人で、このうち高齢者が 60.5%と最も多く、次いで成人の 30.0%でこの 2 区分だけで全体の約 90.5%を占めており、成人・高齢者層の急病が多いことを示しています。また、一般負傷の搬送人員は 942 人で、年齢区分別に見ると高齢者が 71.5%と最も多く、次いで成人の 18.8%、この 2 区分で全体の 90.3%を占めています。

(10) 年齢区分別傷病程度別搬送人員調べ

(令和7年1月～12月)



搬送人員 7,376 人を中等症以上の割合で見ると 50.4%となっており、このうち年齢区分別では高齢者が 68.9%と最も多く、次いで成人の 26.7%、少年の 2.2%の順となっています。

また、軽症では年齢区分別で見ると、高齢者が 42.2%と最も多く、次いで成人の 40.1%、少年の 9.8%の順となっています。

(11) 現場到着所要時間別出動件数調べ

(令和7年1月～12月)

時間 事故種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	合 計	現着最短 所要時間 (分)	現着最長 所要時間 (分)	現着平均 所要時間 (分)
急 病	25	46	2,346	3,141	157	5,715	0	63	10.9
交 通 事 故	5	11	278	393	56	743	0	61	11.8
一 般 負 傷	2	11	460	584	30	1,087	1	47	10.9
そ の 他	3	22	451	625	45	1,146	1	73	11.1
合 計	35	90	3,535	4,743	288	8,691	全体の現場到着平均所要時間 10.8分		
割 合 (%)	0.4	1.0	40.7	54.6	3.3	100.0			

覚知から現場到着するまでに要した時間別件数の状況であります。これによると、最も多いのが 10 分以上～20 分未満の 4,743 件で全体の 54.6%を占めています。

(12) 病院収容所要時間別搬送人員調べ

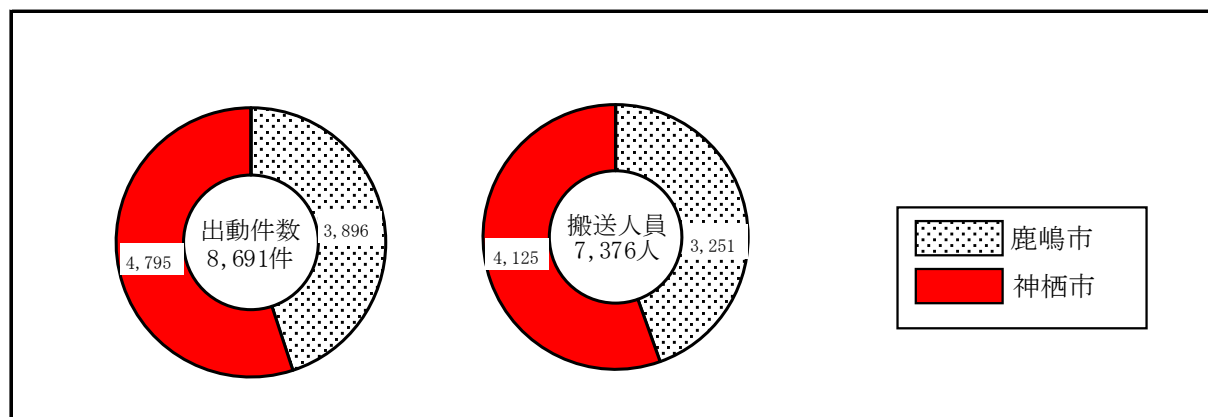
(令和 7 年 1 月～12 月)

時間 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	合 計	収容最短 所要時間 (分)	収容最長 所要時間 (分)	収容平均 所要時間 (分)
急 病	0	6	353	3,338	932	106	4,735	15	353	50.5
交 通 事 故	0	1	42	477	187	15	722	19	268	53.8
一 般 負 傷	0	3	45	638	232	24	942	13	205	53.2
そ の 他	0	5	76	487	378	31	977	16	243	60.2
合 計	0	15	516	4,940	1,729	176	7,376	全体の病院収容平均所要時間 52.5分		
割 合 (%)	0.0	0.2	7.0	67.0	23.4	2.4	100.0			

搬送人員 7,376 人について収容時間別（覚知から医療機関に収容するまでに要した時間）搬送人員の状況であります。これによると、最も多いのが 30 分以上～60 分未満の 4,940 人で全体の 67.0%を占め、次いで 60 分以上～120 分未満の 1,729 人で 23.4%となっています。

(13) 市別出動件数・搬送人員調べ

(令和 7 年 1 月～12 月)

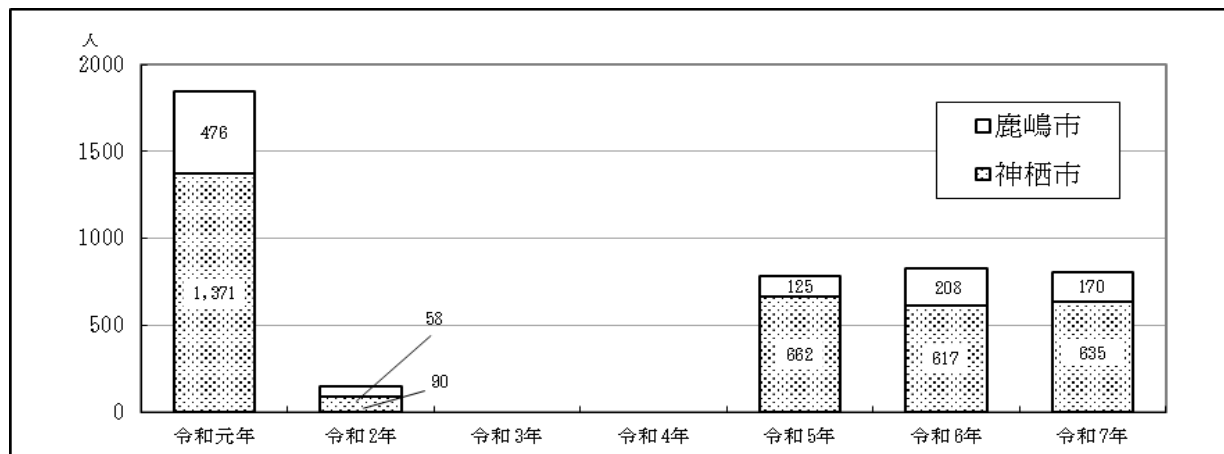


出動件数 8,691 件を市別に見ると、神栖市が 4,795 件で全体の 55.2%を占め、鹿嶋市は 3,896 件で 44.8%となっており、前年と比べ神栖市は 366 件減少し、鹿嶋市は 77 件減少しています。

搬送人員については神栖市が 232 人減少し、鹿嶋市は 64 人の減少となっています。

(14) 普通救命講習受講者数

(令和元年～令和7年)



災害や救急現場では、救急隊が到着する前の数分間が生死を分ける重要な時間帯であります。応急手当の中でも特に胸骨圧迫（心臓マッサージ）やAEDによる電気ショックは、その実施時期の遅速が直接救命効果に影響します。

突然倒れ、いつも通りの呼吸がない人に対して、胸骨圧迫をするのとしないので救命率は約2倍違います。AEDを用いて電気ショックが行われれば、さらに多くの人の命が救えます。

当消防本部救急隊の現場到着平均時間は10.8分となっており、現場においては救急隊が到着するまでのこの数分間が空白となります。従って、この空白を埋めるためには、現場に居合わせた人（バイスタンダー）による速やかな応急手当にかかってくるということになります。

このため、“1人でも多くの救急患者を救え”を目標に住民に対する応急手当講習会を実施しており、平成6年3月「応急手当普及啓発活動」体制を整備してから44,816名が普通救命講習を受講しています。

令和2年4月から令和3年、4年については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため普通救命講習会は実施を見合わせました。

(15) 救急訓練器材

器 具 名	数
救急救命処置訓練人形（レサシアンシミュレーターPLUS）	3
救急救命処置訓練人形（高度処置シミュレーター）	4
気道管理トレーナー	2
静脈注射訓練用モデル	1
心肺蘇生訓練用人形（レサシアン）	15
心肺蘇生訓練用人形（レサシベイベー・ジュニア）	10
心肺蘇生訓練用人形（アクター911）	3
心肺蘇生訓練用人形（リトルアン）	25
心肺蘇生訓練用人形（成人 JAMY-DSP 胴モデル）	1
AEDトレーナー（リトルアントレーニングシステム）	7
AEDトレーナー（トレーニングユニット AX-901V）	11
AEDトレーナー（トレーニングユニット TRN）	2
AEDトレーナー（ライフバック CR-T）	1
AEDトレーナー（ZOLL AED3トレーナー）	3

2 救助活動状況

救助活動は、火災をはじめ自然災害、交通事故、労働災害等各種事故の際に要救助者の生命、身体の危険を排除する活動で、消防業務の中でも基本的かつ重要な任務であります。

当消防本部としても、これらの災害事象の変化に的確に対応するため、人命救助に必要な最新の救助資機材の整備充実を図り、救助工作車（Ⅲ型）1台、救助工作車（Ⅱ型）2台を保有し、救助工作車（Ⅲ型）を緊急消防援助隊に登録しています。現在、高度救助隊1隊、特別救助隊2隊、救助隊2隊の5隊で、管内の救助事案に対応しています。

(1) 年間救助出動件数・救助人員調べ

(令和5年～令和7年)

区 分		救 助 事 故 種 別									合計
		火 災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他 の事故	
出動件数	令和5年		51	10		2	43			38	144
	令和6年	1	50	34			58	1		32	176
	令和7年		64	4		1	64	2		27	162
活動件数	令和5年		20	5		1	19			10	55
	令和6年	1	24	29			27	1		10	92
	令和7年		31	2			41	1		10	85
救助人員	令和5年		25	4		1	19			10	59
	令和6年	1	27	31			28	1		10	98
	令和7年		37	1			41	1		10	90

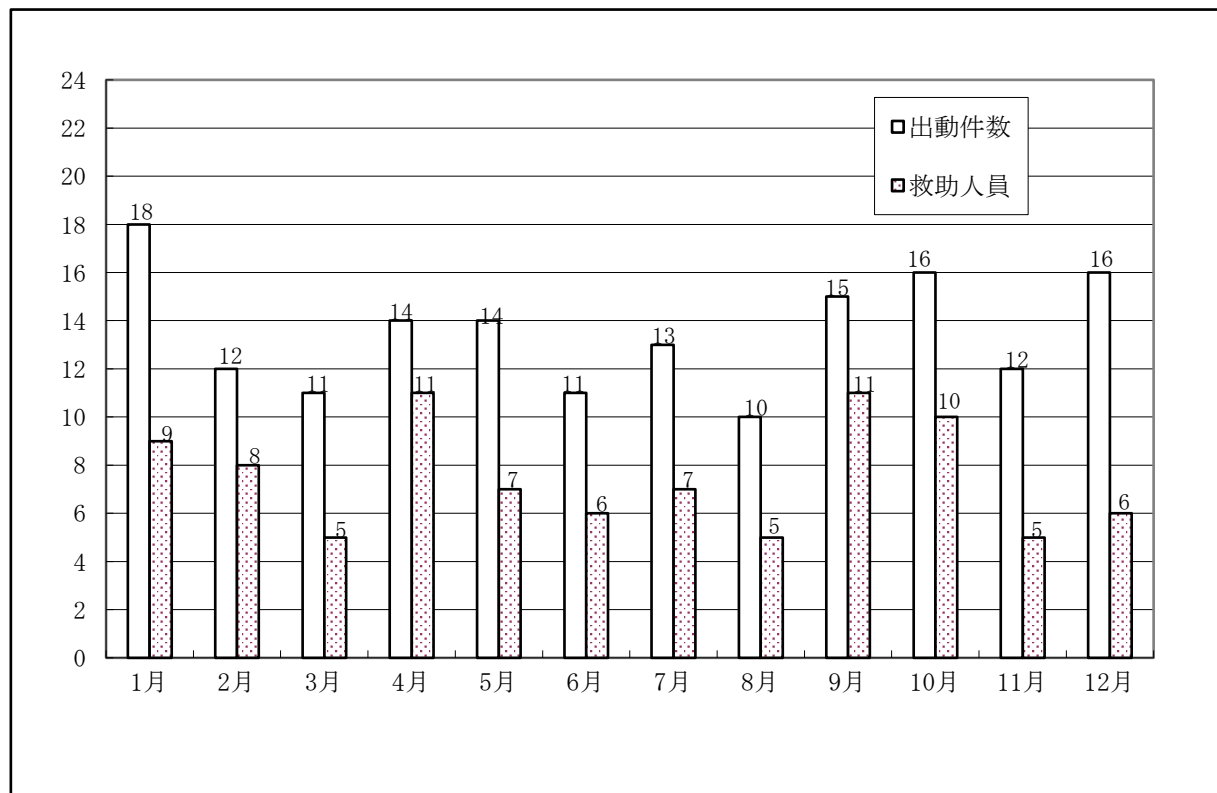
令和7年中の救助出動件数は162件で、前年に比べ14件の減少となり、これを事故種別ごとに見ると、交通事故及び建物等による事故がそれぞれ64件出動し全体の79.0%を占め、次いでその他の事故が27件で16.7%となっています。

また、救助活動件数は85件で前年と比べ7件の減少となり、これを事故種別で見ると、建物等による事故が41件で全体の48.2%、次いで交通事故が31件で36.5%となっています。

救助人員は全体が90人で建物等による事故が最も多く41人、次いで交通事故が37人となっています。

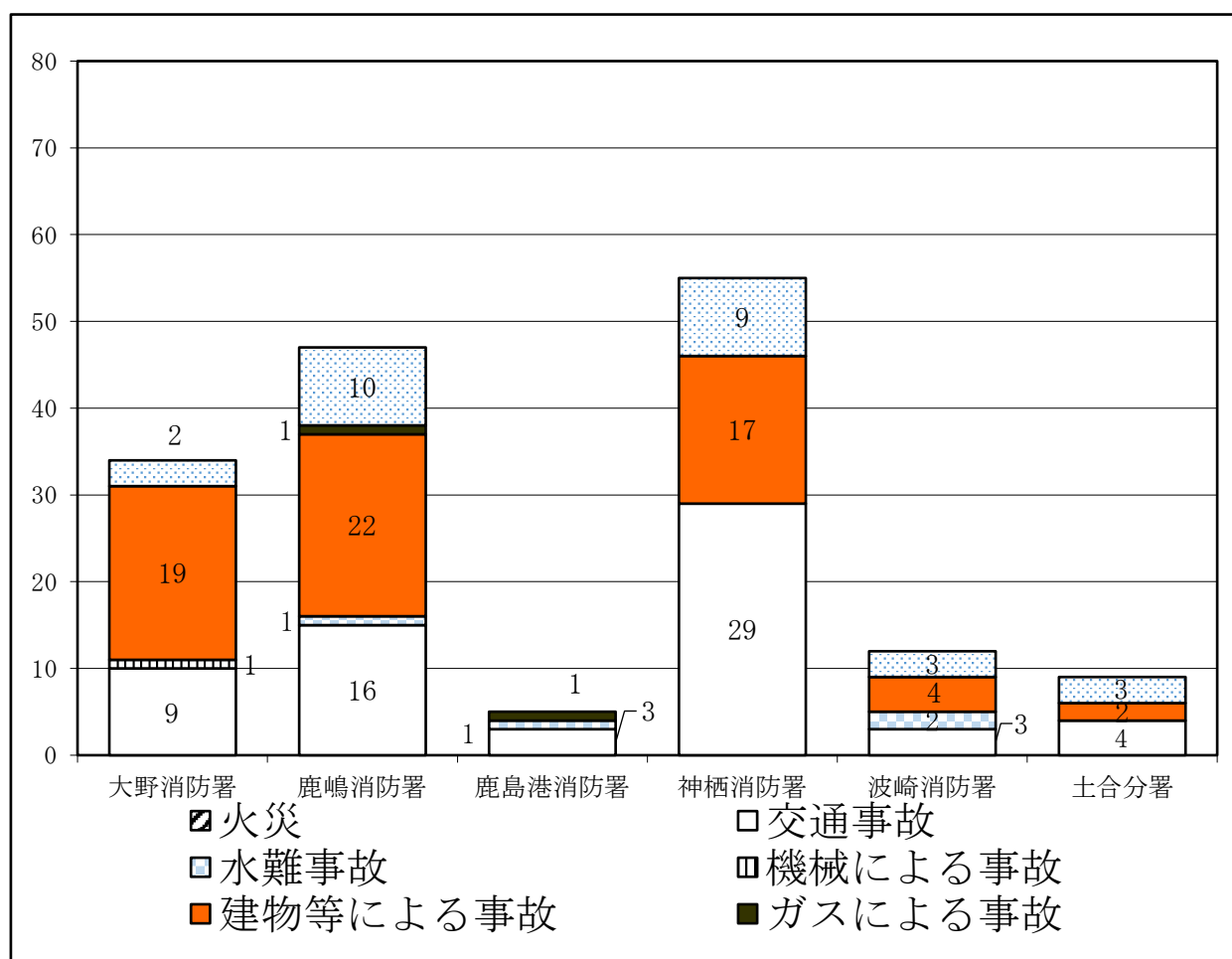
(2) 月別救助出動件数・救助人員調べ

(令和7年1月～12月)



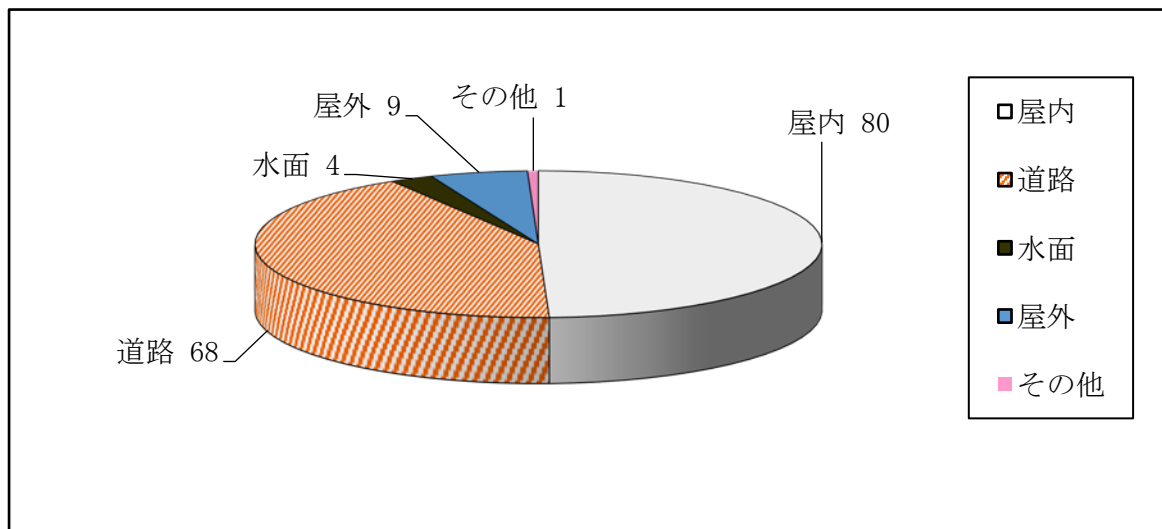
(3) 各消防署管轄区域別救助出動件数調べ

(令和7年1月～12月)



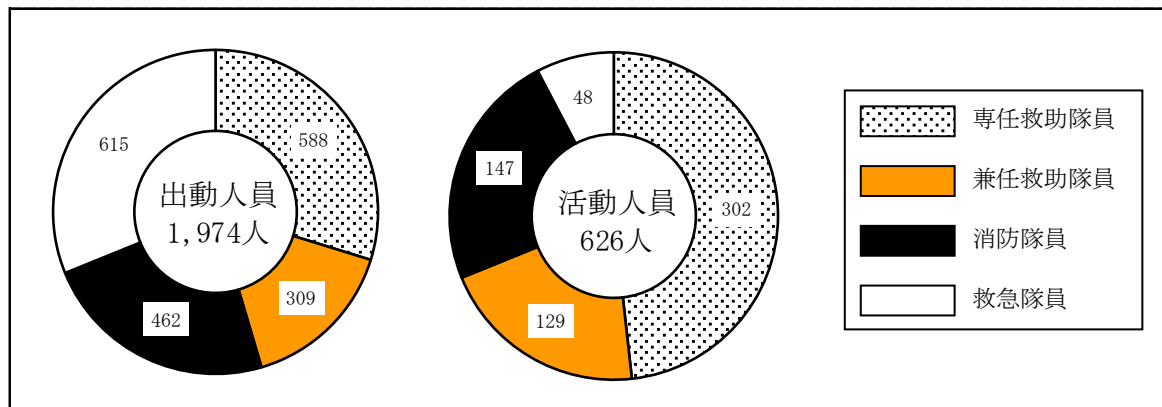
(4) 事故発生場所別救助出動件数調べ

(令和7年1月～12月)



(5) 隊員別救助出動・活動人員調べ

(令和7年1月～12月)



(6) 車両別出動・活動台数調べ

(令和7年1月～12月)

